

令和4年度第1回及び第2回農業関係試験研究内部評価委員会

評価実施結果

1 評価委員

| 評価委員名 | 所属・職名等 | | 摘要 | 第1回 | 第2回 |
|--------|-----------|----------------------------|----|-----|-----|
| 渋谷 智行 | 農業振興課 | 農業普及指導専門監 | 会長 | | 欠席 |
| 八巻 智 | 食産業振興課 | 総括課長補佐 | | | |
| 四戸 涼則 | 農山漁村なりわい課 | 技術副参事兼総括課長補佐 | | 欠席 | |
| 佐藤 淳 | みやぎ米推進課 | 技術副参事兼総括課長補佐 | | | |
| 駒井 真理子 | 園芸推進課 | 総括課長補佐 | | | |
| 鈴木 徳彦 | 畜産課 | 技術副参事兼総括課長補佐 | | | |
| 佐藤 文彦 | 農村振興課 | 技術副参事兼総括技術補佐 (事業管理計画担当) | | 欠席 | |

2 評価対象課題

| 評価対象課題名 | 概要 | 実施期間 | 予算額 | 摘要 |
|---|--|----------------------|---------|------|
| (1) 農業の「働き方改革」に向けた女性や若者等が働きやすい就労環境のモデル化 | 農業法人における望ましい就労環境を実現するため、女性や若者も働きやすい就労環境をモデル化し人材確保や育成に向けた効果的な対策を明らかにする。 | 令和元年度 ～ 令和3年度 | 1,428千円 | 事後評価 |
| (2) 中山間地域等の多彩な園芸生産を支える省力・軽労化技術の確立 | 中山間地域等の生産活動を維持するため、園芸の栽培・収穫調整・運搬作業等の工夫及び組織的取組みの改善方法を検討するとともに、他分野で開発され比較的安価な器具等を活用し、その軽労化技術について検証を行う。 | 令和元年度 ～ 令和3年度 | 2,064千円 | 事後評価 |
| (3) イチゴオリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系の確立 | 県内産地へ、にこにこベリーを普及拡大するために、高収益生産体系を早急に確立し、「とちおとめ」に代わる品種としてブランド化を図る。 | 令和元年度 ～ 令和3年度 | 4,020千円 | 事後評価 |
| (4) イチジク、ブルーベリーの産地化に資する新技術の開発 | 栽培面積が増加傾向であり、今後とも需要が見込まれるイチジク及びブルーベリーについて、新規栽培者が栽培を開始するに当たって取り組みやすい新たな技術を開発する。 | 平成29年度 ～ 令和3年度 | 4,230千円 | 事後評価 |

| | | | | |
|---|--|--------------|---------|------|
| (5) 津波被災復旧農地における土づくり促進及び施肥技術の確立による露地野菜生産安定化 | 津波被災復旧農地における土壌の物理性改善に有効と考えられる有機質資材について、改善効果や投入コスト等の観点から各種資材の特徴を整理し、効率の良い資材活用方法を検討する。併せて、土壌環境の悪影響を受けにくく、施肥量削減も期待できる施肥方法を確立し、復旧農地における露地野菜生産の安定化に資する。 | 平成29年度～令和3年度 | 1,804千円 | 事後評価 |
| (6) 果菜類における総合的作物管理を目指した総合的病害管理技術の開発 | 果菜類において、総合的作物管理技術(ICM)も視野に入れ、総合的病害管理技術(IPM)に関する個々の技術を開発し、園芸作物の特産産地で求められている効果的かつ効率的な防除体系を確立する。 | 平成29年度～令和3年度 | 2,489千円 | 事後評価 |
| (7) 水稻省力・低コスト化総合的栽培技術の確立 | 直播栽培における不安定要因を抽出し、各栽培技術の再構築を行いながら、安定生産に向けた宮城型省力・低コスト栽培技術を確立する。 | 令和元年度～令和3年度 | 4,399千円 | 事後評価 |
| (8) みやぎオリジナル品種育成 | 本県の園芸作物を有利に販売し、ブランドを確立するため、大規模な気象変動にも耐えうる全国に情報発信できる宮城県独自のオリジナル園芸品種の育成を図る。 | 令和元年度～令和5年度 | 5,120千円 | 中間評価 |
| (9) みやぎ独自の園芸生産技術の開発 | 消費者・実需者の要望に基づいた生産体制の確立を目指して、特徴的な生産体系を生み出す技術シーズ(端境期生産等)や消費者・実需者のニーズを満たす園芸生産技術の開発を図る。 | 令和元年度～令和5年度 | 6,345千円 | 中間評価 |
| (10) 寒冷地に適した環境制御による花きの高品質・安定生産技術の開発 | 県内版花きの高品質・安定生産技術体系を確立するため、キク類、カーネーションの冬季の炭酸ガス施用技術、キク類のより省力・低コストな暗期中断による生産技術、鉢物類、花壇用苗物類の物理的刺激を利用したわい化技術を開発する。 | 令和元年度～令和5年度 | 6,115千円 | 中間評価 |
| (11) 昆虫の寄主選択機構に着目した総合的害虫管理技術の開発 | イチゴやトマト等の施設果菜類では総合的病害管理技術(IPM)の取り組みが進んでいるものの、それ以外の露地野菜、果樹、花きでは取り組みが遅れているため、これらの品目において導入可能なIPM技術を開発する。 | 令和元年度～令和5年度 | 4,792千円 | 中間評価 |
| (12) 宮城県に適した超多収水稻品種開発に向けた中間母本の育成 | 宮城県において超多収となる水稻品種を開発するため、安定した多収性を選抜指標として系統の養成・選抜を行い、水稻中間母本を育成する。 | 令和元年度～令和5年度 | 2,274千円 | 中間評価 |
| (13) 土地利用型農業経営における病害虫リスク管理と防除技術の確立 | 土地利用型農業経営体において、斑点米カメムシ類の発生可能地域の拡大、新品種導入時の病害虫発生、露地野菜の拡大に伴うダイズ害虫など、予想される病害虫リスクを回避するための防除技術を確立する。 | 令和元年度～令和5年度 | 8,284千円 | 中間評価 |

| | | | | |
|---|--|---------------------|---------|------|
| (14) 除染後牧草地の維持管理技術の確立 | 草地管理の違いによる土壌中カリウム濃度を把握するとともに、除染後草地での土壌成分の回復を図る施肥方法を検討する。また、除染後草地において牧草への放射性物質移行を抑制できる栽培管理や再更新手法について検証する。 | 令和元年度 ～ 令和5年度 | 2,660千円 | 中間評価 |
| (15) 水稲栽培における有機物循環利用と効率的施肥による肥料コスト低減技術の確立 | 水稲栽培において、家畜ふん堆肥と利用効率の高い施肥法との組合せや、緑肥利用といった県内での取組み事例が少ない有機物循環利用による化学肥料低減技術について、その効果を検討し、取組みやすい低コスト技術の体系化を図る。 | 令和5年度 ～ 令和7年度 | 3,176千円 | 事前評価 |
| (16) 乳用牛のベストパフォーマンス発揮に向けた飼養管理手法の確立 | 改良により向上した産乳能力を引き出すため周産期時の飼養管理手法および抗生剤に依存しない疾病発生予防手法の技術を開発する。 | 令和5年度 ～ 令和9年度 | 4,450千円 | 事前評価 |

3 評価項目

(1) 事後評価

- イ 目標の達成度
- ロ 研究成果
- ハ 地域への貢献度・波及効果
- ニ 総合評価

(2) 中間評価

- イ 計画の進捗度
- ロ 情勢変化等への適合性
- ハ 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し

(3) 事前評価

- イ 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度
- ロ 緊急性・優先性
- ハ 独創性・先進性・優位性
- ニ 市場性・成長性
- ホ 実現可能性
- ヘ 人・予算・設備等の推進体制

4 評価結果（コメント等は別紙参照）

(1) 農業の「働き方改革」に向けた女性や若者等が働きやすい就労環境のモデル化

事後評価：「優れた研究であった」

(2) 中山間地域等の多彩な園芸生産を支える省力・軽労化技術の確立

事後評価：「妥当な研究であった」

(3) イチゴオリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系の確立

事後評価：「優れた研究であった」

(4) イチジク、ブルーベリー産地化に資する新技術の開発

- 事後評価：「優れた研究であった」
- (5) 津波被災復旧農地における土づくり促進及び施肥技術の確立による露地野菜生産安定化
事後評価：「優れた研究であった」
- (6) 果菜類における総合的作物管理を目指した総合的病害管理技術の開発
事後評価：「優れた研究であった」
- (7) 水稲省力・低コスト化総合的栽培技術の確立
事後評価：「優れた研究であった」
- (8) みやぎオリジナル品種育成
中間評価：「計画どおりである」
- (9) みやぎ独自の園芸生産技術の開発
中間評価：「計画どおりである」
- (10) 寒冷地に適した環境制御による花きの高品質・安定生産技術の開発
中間評価：「計画どおりである」
- (11) 昆虫の寄主選択機構に着目した総合的害虫管理技術の開発
中間評価：「計画どおりである」
- (12) 宮城県に適した超多収水稲品種開発に向けた中間母本の育成
中間評価：「計画どおりである」
- (13) 土地利用型農業経営における病害虫リスク管理と防除技術の確立
中間評価：「計画どおりである」
- (14) 除染後牧草地の維持管理技術の確立
中間評価：「計画どおりである」
- (15) 水稲栽培における有機物循環利用と効率的施肥による肥料コスト低減技術の確立
事前評価：「ぜひ採択すべきである」
- (16) 乳用牛のベストパフォーマンス発揮に向けた飼養管理手法の確立
事前評価：「ぜひ採択すべきである」

5 研究課題評価表

別紙のとおり。

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ① | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 農業の「働き方改革」に向けた女性や若者等が働きやすい就労環境のモデル化 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（情報経営部） 担当リーダー名（櫻井晃治） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|--|--|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い （×1／5） 【八巻委員】検討項目について目標を達成していた。 | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い （×1／5） 【八巻委員】優先的に取り組むべき事項等が整理され成果が明確化された。 【駒井委員】経営者自らが就労環境を自己点検する「シート」を作成したことは高く評価できる。 | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない （×1／5） 【八巻委員】現場の作業者に直結した高い効果が期待される。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 80.0 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | |
| | A | A | — | A | A | A | — | 4.0 | A |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・本研究により農業法人の人材確保，育成に関し，経営者側，雇用者側の意識の乖離が明らかにされ，改善策として優良事例を元に自己点検シートが作成された。
- ・本シートを活用することにより，雇用環境に改善が図られ，経営の安定化が図られることが見込まれる。有意義な研究となっている。

【 八 巻 委員 】

- ・データ分析に基づく実態や課題の検証等が行われ，女性や若者が働きやすい環境づくりにつながることを期待される。

【 佐 藤 委員 】

- ・東日本大震災後，従業員を雇用する経営体が増加していることから，就労環境の改善に関する課題は，その解決に向けた緊急性が高い。
- ・経営の安定化のためには，人材確保が重要であるため，本成果を現場で活用できるツールとして，早期の普及を期待する。

【 駒 井 委員 】

- ・経営者が就労環境を自己点検し，改善に向けた計画策定のためのツールとして，「就労環境自己点検シート」が作成されたが，園芸部門では正社員やパート従業員を多く抱える大規模施設園芸を営む農業法人が増加しており，波及効果が期待できる。

【 鈴 木 委員 】

- ・本研究は，農業法人自らが就労環境を正しく把握し，課題解決へ向けた取組のスタートにもつながる意義のある課題である。農業分野でも「働き方改革」が求められているため，女性や若者が働きやすく，女性や若者から選ばれる農業法人の実現を期待します。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|-------------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ② | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 中山間地域等の多彩な園芸生産を支える省力・軽労化技術の確立 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（野菜部） 担当リーダー名（斎藤健志） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.0 | 30 | 18.0 |
| | B | B | — | B | B | B | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.2 | 40 | 25.6 |
| | B | B | — | B | A | B | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 67.6 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.4 |
| B | B | — | B | A | A | — | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・小規模な経営体では、区画が小さいほ場において多彩な品目が機械化されず、人力により作業が行われ肉体的な負担が大きい状況となっている。
- ・本研究により補助具の活用やファン付き作業着活用の効果が具体的に明らかにされた。また、一方で使い方次第では必ずしも省力化や軽労化に繋がらない事も明らかにされるなど、評価できる研究であった。

【 鈴木 委員 】

- ・中山間地域等の多彩な園芸生産を支える高齢者・女性の負担軽減の一助となることを期待します。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|---|-------|------------|------|---|
| 課題コード | ③ | 評価実施日 | 令和4年11月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | イチゴオリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系の確立 (重点的研究課題) | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（野菜部） 担当リーダー名（菊地 友佳里） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 30 |
| — | | A | A | A | A | A | B | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) 【八巻委員】作型や生産体系を明らかにするなど計画をおおむね達成している。 【四戸委員】高単価時期を狙った作型の開発ができた。 【佐藤文彦委員】作型開発については概ね達成しているが、高品質果実生産体系については、計画未達成の部分がある。 | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 30 | 22.8 |
| | — | A | A | A | A | A | B | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) 【八巻委員】効果的な栽培に向けての成果となっている。 【四戸委員】年内収量の増加が期待できる。 【佐藤文彦委員】概ね妥当である。 | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | — | A | A | A | A | A | A | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) 【八巻委員】生産の拡大、生産額の増大によるに向けて効果が期待される。 【四戸委員】高単価作型の開発により県内園芸生産額の増加が期待できる。 【佐藤文彦委員】品質、生産拡大により、生産者の所得向上が期待できる | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 77.6 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 |
| — | A | A | A | A | A | B | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった
C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【八巻委員】

- ・「にこにこベリー」の高収益生産に向けた技術の普及・推進に寄与するものと考えている。引き続き研究が進み県産イチゴのブランド化が図られることを期待する。

【四戸委員】

- ・本研究によりにこにこベリーの単価・高収益の作型と栽培体系を明らかにできたことで、本県園芸生産額の増加や生産者の所得向上が期待できる。

【佐藤淳委員】

- ・本県オリジナル品種「にこにこベリー」の高収益生産体系が解明された成果は大きく、園芸産出額の増加や生産者の所得向上に向け、生産者にわかりやすく、取り組みやすい内容で提示し、現地に早期普及することを期待します。

【駒井委員】

- ・みやぎ園芸特産振興戦略プランにおいて、県育成新品種「にこにこベリー」の普及拡大等により、いちご100億円産地の育成を目標にしている。「にこにこベリー」の品種特性を生かした単価時期の販売に向けた作型開発等は、園芸産出額増加に繋がる。

【鈴木委員】

- ・イチゴは園芸特産振興戦略プランの重要品目であり、本県園芸振興を牽引する品目としてイチゴに関する本試験の意義は大きく、作期拡大による有利販売、収益性向上などを期待します。

【佐藤文彦委員】

- ・本研究結果により、にこにこベリー生産者の所得向上、宮城県の園芸産出額の増加が期待でき、妥当な研究であった。残された課題の研究にも期待したい。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|----------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ④ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | イチジク、ブルーベリーの産地化に資する新技術の開発 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（花き・果樹部） 担当リーダー名（小島由美子） | | | | |
| 研究期間 | 平成29年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.4 | 30 |
| A | | B | — | B | A | B | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 30 | 22.8 |
| | A | B | — | A | A | A | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 75.2 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 |
| A | B | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・新たにイチジクやブルーベリーを導入する農業者にとって、収量の確保や増収技術の開発は求められるものである。そのような中、比較的簡易な手法により増収技術を示した本研究の意義は高い。

【 鈴木 委員 】

- ・イチジクについては、これまでの蓄積した研究成果をベースにしながら、残された課題が解決されていくことを期待します。
- ・ブルーベリーについては、露地養液土耕と不透水性反射シートを組み合わせた栽培方法が、定植6年目までは慣行栽培より収量が増加することが考えられるなどの成果があることから、現地指導等を通じた成果の伝達・普及を期待します。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|---|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑤ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 津波被災復旧農地における土づくり促進及び施肥技術の確立による露地野菜生産安定化 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（園芸環境部） 担当リーダー名（瀧 典明） | | | | |
| 研究期間 | 平成29年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 30 | 22.8 |
| | B | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 78.8 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・津波被災地の復旧農地はほ場により、排水性や物理性が大きく異なり、改善が求められる農地が多い。このような条件の中、露地野菜の作付けが進んできており、ほ場に合わせた土づくりや効果的な施肥法が本試験で示されたことは、園芸振興に貢献できる成果である。

【 鈴木 委員 】

- ・津波被災復旧農地に対し、効果的な有機質資材や土づくり資材等の有効活用が開発され、復旧農地における早期の露地野菜の安定的な生産を期待します。特に堆肥の施用については、ネギ栽培試験において堆肥の種類や施用量に関する結果が得られていることから、研究成果の伝達と現地での普及を期待します。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|---------------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑥ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 果菜類における総合的作物管理を目指した総合的病害管理技術の開発 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（園芸環境部） 担当リーダー名（大場淳司） | | | | |
| 研究期間 | 平成29年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.2 | 30 |
| B | | B | — | B | A | B | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い (×1/5) | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.6 | 40 | 28.8 |
| | A | B | — | A | B | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 72.0 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 |
| A | B | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・ 総合的病虫害防除技術は生産者、消費者双方に望まれる技術である。本研究で示された成果は、農薬使用を軽減できる事が示されており、早期に現場に活用されることが望まれる研究成果である。

【 鈴木 委員 】

- ・ 化学合成農薬の減量への取組については、生産者の意識とともに、消費者の意向を踏まえ今後も進めていかなければならない技術であり、着実に成果が上がることを期待します。さらに、体系的な防除技術として総合的病害管理技術の生産現場での普及を期待します。

所

見

研究課題評価表（事後評価）

| | | | | | |
|-----------|--------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑦ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 水稻省力・低コスト化総合的栽培技術の確立 | | | | |
| 試験研究機関名 | 古川農業試験場 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（作物栽培部） 担当リーダー名（菅野博英） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和3年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|--|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 目標の達成度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：極めて高い A：高い B：未達成の部分はあるが概ね妥当 C：やや低い D：低い （×1/5） 【八巻委員】栽培技術確立に向けた目標を達成していた。 | | | | | | | | | | |
| 研究成果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 30 | 22.8 |
| | B | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：極めて高い A：高い B：妥当 C：やや低い D：低い （×1/5） 【八巻委員】効率的な栽培技術の普及に向けた成果となっている。 | | | | | | | | | |
| 地域への貢献度・波及効果 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.2 | 40 | 33.6 |
| | A | A | — | A | S | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない （×1/5） 【八巻委員】研修会等を通じた栽培技術の普及による高い効果が期待される。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 80.4 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：極めて優れた研究であった A：優れた研究であった B：妥当な研究であった

C：有意義ではない研究であった D：成果が乏しい研究であった

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・担い手への農地集積が進んでいる中、水当直播の栽培技術はもはや必要不可欠な技術になりつつある。しかしながら取り組み面積はまだまだ拡大の余地が残されている。
- ・本研究では栽培条件に合わせ栽培技術を選択させるフローチャートが作成されたほか、各技術の栽培マニュアルが作成され、直播栽培の普及に弾みを付ける成果である。

【 八 巻 委員 】

- ・栽培方式毎の検証・検討が行われ、技術の普及・推進に寄与することが期待される。引き続き研究及び普及が進み、更なる効率的な栽培が進展していくことを期待する。

【 佐 藤 委員 】

- ・経営の大規模化、担い手の減少・高齢化、米価下落や資材高騰などにより、水稻作業の省力・低コスト化に関する課題は、その解決に向けた緊急性が高い。直播栽培の技術確立は高い効果が期待されることから、本成果を現場で活用できるツールとして、早期の普及を期待する。

【 駒 井 委員 】

- ・分かりやすい直播栽培導入支援フローチャートは、生産者自らがほ場条件にあった栽培方法を選択できる。併せて、鉄コーティング及びべんがらモリブデン栽培マニュアルを作成し、農業改良普及センターと連携しながら、普及展示ほを設置しており、省力・低コスト技術である直播栽培の普及推進が期待される。

【 鈴 木 委員 】

- ・直播栽培は水稻の春作業の省力・低コスト技術として期待されるため、これまでの蓄積された研究成果を生かしながら、宮城型省力・低コスト栽培技術の確立を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | | | |
|-----------|--|-------|-----------|--|--|------|---|
| 課題コード | ⑧ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | | | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | みやぎオリジナル品種育成 | | | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（野菜部，花き・果樹部，園芸環境部，情報経営部） 担当リーダー名（相澤正樹） | | | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：計画以上 A：計画どおり B：遅れはあるが妥当 C：かなり遅れている D：計画以下 (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：対応済 A：ほぼ対応している B：未対応の部分はありますが概ね妥当 C：対応不十分 D：未対応 (×1/5) | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.6 | 40 | 36.8 |
| | A | A | — | S | S | S | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 84.8 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 | |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|----|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | | | 佐藤 |
| | A | A | — | A | A | S | — | 4.2 | A |

評価基準：

S：計画以上に進捗している **A**：計画どおりである **B**：やや遅れはあるが，妥当である

C：試験研究計画，手法等の部分的見直しが必要である **D**：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値を評価平均とし，その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・本県の園芸振興を進める上で、品種開発は重要な課題である。「いちご」や「セリ」ではすでに成果に結びついており、また、果樹については今後期待できる状況にある。さらなる研究が待たれる。

【 鈴木 委員 】

- ・本県の園芸作物を有利販売し、ブランドを確立するためにも“みやぎオリジナル園芸品種”の育成が必要であり、生産者・実需者の要望を踏まえながら、交配から検定・実証・評価に取り組まれてきたことを評価します。今後も園芸産出額の向上や生産者の所得増加につながる試験研究を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑨ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | みやぎ独自の園芸生産技術の開発 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（野菜部，情報経営部，花き・果樹部） 担当リーダー名（高橋勇人） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S：計画以上 A：計画どおり B：遅れはあるが妥当 C：かなり遅れている D：計画以下 (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：対応済 A：ほぼ対応している B：未対応の部分はあるが概ね妥当 C：対応不十分 D：未対応 (×1/5) | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.6 | 40 | 36.8 |
| | A | A | — | S | S | S | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 84.8 | |

* 採点の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している **A**：計画どおりである **B**：やや遅れはあるが，妥当である

C：試験研究計画，手法等の部分的見直しが必要である **D**：本課題を中止すべきである

* 総合評価の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値を評価平均とし，その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・多様な園芸品目の品種特性や新たな栽培技術の開発を進めている。これらは本県の園芸振興に資する技術であり、今後の研究が期待される。

【 鈴木 委員 】

- ・宮城県の特徴ある園芸ブランド創出の基本となる研究であるため、今後のシーズや消費者・実需者のニーズを満たす園芸生産技術の開発を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | |
|-----------|--------------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑩ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 寒冷地に適した環境制御による花きの高品質・安定生産技術の開発 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（花き・果樹部） 担当リーダー名（小林啓未） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評 価 | | | | | | 係 数 平 均 | 比 重 | 採 点 |
|---|---|-----|----|----|----|----|----|------------|-----|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S:計画以上 A:計画どおり B:遅れはあるが妥当 C:かなり遅れている D:計画以下 (×1/5) | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S:対応済 A:ほぼ対応している B:未対応の部分はあるが概ね妥当 C:対応不十分 D:未対応 (×1/5) | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S:大いに期待できる A:期待できる B:概ね期待できる C:あまり期待できない D:期待できない (×1/5) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 80 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評 価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|-----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが、妥当である

C：試験研究計画，手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・現地における花きの炭酸ガス施用技術はまだまだ普及途上の技術であるが、今後の研究成果により施用の優位性が示されることにより、導入が進むことを期待したい。また、物理的な刺激を活用した技術開発により省力化や品質向上が進むことも期待する。

【 鈴木 委員 】

- ・生産者等の要望に寄り添った長年の研究蓄積を継承し、各産地の安定した供給・生産が行われることを期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | |
|-----------|----------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑪ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 昆虫の寄主選択機構に着目した総合的害虫管理技術の開発 | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（園芸環境部） 担当リーダー名（関根崇行） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.6 | 30 |
| A | | A | — | S | S | S | — | | | |
| S：計画以上 A：計画どおり B：遅れはあるが妥当 C：かなり遅れている D：計画以下 （×1/5） 【八巻委員】検討項目について計画目標を達成していた。 | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：対応済 A：ほぼ対応している B：未対応の部分はあるが概ね妥当 C：対応不十分 D：未対応 （×1/5） 【八巻委員】栽培技術の効率化，安全安心な食料生産面等においても望ましい。 | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S：大いに期待できる A：期待できる B：概ね期待できる C：あまり期待できない D：期待できない （×1/5） 【八巻委員】広域的な技術の普及による高い効果が期待される。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 83.6 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.2 |
| A | A | — | A | A | S | — | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが，妥当である

C：試験研究計画，手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点，A＝4点，B＝3点，C＝2点，D＝1点）の平均値を評価平均とし，その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・農薬の使用を削減できるIPM技術は、今後一層の普及が期待されている。本県の土着天敵を活用した防除技術を始め、農薬以外の多様な防除方法の研究は意義が大きい。

【 八 巻 委員 】

- ・外部資金を獲得して研究を進める等積極的な姿勢がみられる。本研究の成果が効果的な栽培技術の普及や課題解決に大きく影響すると思われることから、今後の動向が期待される。

【 佐 藤 委員 】

- ・みどりの食料システム法が施行され、今後一層、環境保全型農業やGAPを推進していく上で、IPM技術の開発・導入に関する課題は、その解決に向けた緊急性が高い。当該研究成果の早期確立を期待する。

【 駒 井 委員 】

- ・みどりの食料システム戦略において、病害虫の総合防除の推進等により化学肥料・化学合成農薬の抑制によるコスト低減が期待されており、IPMの重要性は高い。土着天敵の有効利用として、イチゴにおいて、ヒラタアブの放飼区では健全果実数が増加している結果を受け、イチゴの収量及び品質向上にも寄与できれば、園芸産出額の増加も期待できる。

【 鈴木 委員 】

- ・農薬の使用量の低減や農薬散布作業負担の軽減、薬剤抵抗性発現の抑制等を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | |
|-----------|-----------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑫ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 宮城県に適した超多収水稻品種開発に向けた中間母本の育成 | | | | |
| 試験研究機関名 | 古川農業試験場 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（作物育種部） 担当リーダー名（石森裕貴） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|--|--|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S:計画以上 A:計画どおり B:遅れはあるが妥当 C:かなり遅れている D:計画以下 (×1/5) 【八巻委員】研究が計画どおり進んでいることを確認した。 | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S:対応済 A:ほぼ対応している B:未対応の部分はあるが概ね妥当 C:対応不十分 D:未対応 (×1/5) 【八巻委員】社会情勢等からも安定的な多収品種の開発は望ましい。 | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見直し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 40 | 30.4 |
| | A | B | — | A | A | A | — | | | |
| | S:大いに期待できる A:期待できる B:概ね期待できる C:あまり期待できない D:期待できない (×1/5) 【八巻委員】開発とともに消費等も含めた目標を明確化することも必要と考える。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 100% | 78.4 |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが、妥当である

C：試験研究計画、手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・米の消費減退が進む中，主産地として本県稲作における消費ニーズに合わせた品種改良は重要である。研究成果を活かした早期の新品種開発に期待する。

【 八 巻 委員 】

- ・安定的な品質の多収米の開発は，農業生産性の向上，経営の安定化に寄与するものではあるが，単なる開発にとどまらず，品種の特性や強みを活かした戦略を意識して進めて頂くことを期待する。

【 佐 藤 委員 】

- ・水稻の低コスト化や，非主食用米を含む需要に応じた米生産を推進していくためには，超多収水稻品種の開発は，本県の米販売戦略上，必要性が高い。確実な成果が得られることを期待する。

【 駒 井 委員 】

- ・中間母本育成は順調に進んでおり，超多収米は低コストにも繋がるため，今後とも良食味の中間母本の育成に期待する。

【 鈴 木 委員 】

- ・既存の多収品種を上回る超多収で耐倒伏性や耐冷性に優れる水稻品種の開発を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | | | |
|-----------|-------------------------------|-------|-----------|--|--|------|---|
| 課題コード | ⑬ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | | | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 土地利用型農業経営における病害虫リスク管理と防除技術の確立 | | | | | | |
| 試験研究機関名 | 農業・園芸総合研究所 | | | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（作物環境部） 担当リーダー名（小野 亨） | | | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 | | | | | | | | |
|--|--------|--|----|----|----|------|------|------|----|----|---|---|---|---|-----|----|------|----|
| | 計画の進捗度 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>渋谷</td><td>八巻</td><td>四戸</td><td>佐藤</td><td>駒井</td><td>鈴木</td><td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>A</td><td>A</td><td>—</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>—</td> </tr> </table> | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | A | A | — | A | A | A | — | 4.0 | 30 |
| 渋谷 | | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | | | | | | | | | | |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | | | | | | | | | |
| S:計画以上 A:計画どおり B:遅れはあるが妥当 C:かなり遅れている D:計画以下 (×1/5) 【八巻委員】計画どおり進捗が図られていることを確認した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>渋谷</td><td>八巻</td><td>四戸</td><td>佐藤</td><td>駒井</td><td>鈴木</td><td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>A</td><td>A</td><td>—</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>—</td> </tr> </table> | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | A | A | — | A | A | A | — | 4.0 | 30 | 24.0 | |
| 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | | | | | | | | | | | |
| A | A | — | A | A | A | — | | | | | | | | | | | | |
| S:対応済 A:ほぼ対応している B:未対応の部分はあるが概ね妥当 C:対応不十分 D:未対応 (×1/5) 【八巻委員】農地の大区画化・低コスト化には、これら技術開発も不可欠である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>渋谷</td><td>八巻</td><td>四戸</td><td>佐藤</td><td>駒井</td><td>鈴木</td><td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>A</td><td>A</td><td>—</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>—</td> </tr> </table> | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | A | A | — | A | A | A | — | 4.0 | 40 | 32.0 | |
| 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | | | | | | | | | | | |
| A | A | — | A | A | A | — | | | | | | | | | | | | |
| S:大いに期待できる A:期待できる B:概ね期待できる C:あまり期待できない D:期待できない (×1/5) 【八巻委員】土地利用型農業の普及に直結した高い効果が期待される。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 100% | 80.0 | | | | | | | | | | | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 | | | | | | | | |
|------|--|----|----|----|----|----|------|------|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>渋谷</td><td>八巻</td><td>四戸</td><td>佐藤</td><td>駒井</td><td>鈴木</td><td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>A</td><td>A</td><td>—</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>—</td> </tr> </table> | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | A | A | — | A | A | A | — | 4.0 |
| 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | | | | | | | | | |
| A | A | — | A | A | A | — | | | | | | | | | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが、妥当である

C：試験研究計画、手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・研究により早期の防除体系が示されることを期待する。

【 八 巻 委員 】

- ・収益性の高い農業を実現するには露地野菜の導入を積極的に進める必要があり、本技術の確立・導入が促進され、農業経営の安定化に資することを期待する。

【 佐 藤 委員 】

- ・所得を確保できる水田農業を推進していくためには、病虫害防除のリスク管理は重要であり、当該研究課題は貢献度が高いものとなる。
- ・また、米のブランド化戦略の推進においても、だて正夢、金のいぶきの病虫害管理技術や、ドローンによる病虫害発生予兆の観察技術の確立には大いに期待したい。

【 鈴木 委員 】

- ・土地利用型農業において予想される病虫害リスクを回避するための防除技術を作成するとともに、新品種導入に伴う新しい病虫害防除法の作成を期待します。

所

見

研究課題評価表（中間評価）

| | | | | | |
|-----------|--------------------------|-------|-----------|------|---|
| 課題コード | ⑭ | 評価実施日 | 令和4年7月21日 | 評価者名 | — |
| 試験研究課題名 | 除染後牧草地の維持管理技術の確立 | | | | |
| 試験研究機関名 | 畜産試験場 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部（草地飼料部） 担当リーダー名（荒木利幸） | | | | |
| 研究期間 | 令和元年度～令和5年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評価 | | | | | | 係数平均 | 比重 | 採点 |
|--|--|----|----|----|----|----|----|------|------|------|
| | 計画の進捗度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 |
| A | | A | — | A | A | A | — | | | |
| S:計画以上 A:計画どおり B:遅れはあるが妥当 C:かなり遅れている D:計画以下 (×1/5) 【八巻委員】計画どおり研究が進められていることを確認した。 | | | | | | | | | | |
| 情勢変化等への適合性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 30 | 24.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S:対応済 A:ほぼ対応している B:未対応の部分はあるが概ね妥当 C:対応不十分 D:未対応 (×1/5) 【八巻委員】東日本大震災からの復旧・復興に欠かせない研究である。 | | | | | | | | | |
| 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見直し | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 40 | 32.0 |
| | A | A | — | A | A | A | — | | | |
| | S:大いに期待できる A:期待できる B:概ね期待できる C:あまり期待できない D:期待できない (×1/5) 【八巻委員】長期間、安定した安全な牧草生産が図られることが期待される。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 100% | 80.0 | |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 |
| A | A | — | A | A | A | — | | |

評価基準：

S：計画以上に進捗している A：計画どおりである B：やや遅れはあるが、妥当である

C：試験研究計画、手法等の部分的見直しが必要である D：本課題を中止すべきである

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

【 渋谷 会長 】

- ・ 本県農産物の生産において、安全安心を担保する上で放射性物質に関する研究は非常に重要である。本研究成果により安全性を確保した上で牧草の収量増がはかれるよう、技術開発を期待する。また、併せて成果発表に当たっては、風評被害を招かないよう細心の注意を払っていただきたい。

【 八巻 委員 】

- ・ 施肥バランスが保たれ効率的な土壌成分回復を積極的に図るための本技術の確立・導入は、経年変化に対応した農業経営の効率化・安定化に資するものになると期待する。

【 佐藤 委員 】

- ・ 暫定許容値を超える牧草の解消は、安全・安心な畜産物の生産だけでなく、耕畜連携や環境保全型農業を推進する上でも重要となってくる。本研究成果の確立を期待する。

【 駒井 委員 】

- ・ 除染済牧草地における牧草の暫定許容値の再超過を防ぐためにも肥培管理の違いによる土壌中カリウム濃度を把握し、施肥方法の検討を図ることは、重要である。

【 鈴木 委員 】

- ・ 安全・安心な畜産物の生産には、暫定許容値を超える牧草の解消を目指す必要があり、本研究の成果を踏まえ、今後、現地指導で活用されることを期待します。
- ・ また、堆肥の効率的活用によるR C s 吸収抑制効果が有効であることから、適切な肥培管理を進める上でも堆肥の有効活用を期待します。

所

見

研究課題評価表(事前評価)

| | | | | | |
|-----------|---|-------|------------|------|---|
| 課題コード | ⑮ | 評価実施日 | 令和4年11月21日 | 評価者名 | - |
| 試験研究課題名 | 水稻栽培における有機物循環利用と効率的施肥による肥料コスト低減技術の確立 (重点的研究課題) | | | | |
| 試験研究機関名 | 古川農業試験場 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部(作物環境部) 担当リーダー名(小野寺 博稔) | | | | |
| 研究期間 | 令和5年度～令和7年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評 価 | | | | | | 係 数 平 均 | 比 重 | 採 点 | |
|---|-------------|--|----|----|----|----|----|------------|-----|-----|------|
| | | 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.3 | 20 |
| - | | | A | A | A | S | A | S | | | |
| S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】資源の有効活用面からも重要な課題である。 【四戸委員】農業者が取り組みやすい肥料コスト低減技術の研究は重要である。 【佐藤文彦委員】みどりの食料システム戦略の施策推進に適合する。 | | | | | | | | | | | |
| | 緊急性・優先性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.8 | 20 | 19.2 |
| | | - | A | S | S | S | S | S | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】研究成果の現場への早期反映が望まれる。 【四戸委員】世界的に肥料価格が高騰しており、国内での肥料コスト低減技術の取組拡大に向け、早期に取り組むべき課題である。 【佐藤文彦委員】化学肥料の使用量低減技術は、優先的に取り組む研究である。 | | | | | | | | | |
| | 独創性・先進性・優位性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.8 | 20 | 15.2 |
| | | - | A | A | A | A | A | B | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】本技術の確立は、生産の優位性に直結する。 【四戸委員】家畜ふん堆肥や緑肥の活用により化学肥料の低減を確立する研究は重要である。 【佐藤文彦委員】研究の独創性、先進性は普通である。 | | | | | | | | | |
| | 市場性・成長性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.8 | 20 | 19.2 |
| | | - | S | S | S | S | S | A | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】有機農業の推進・展開に向け、効果が高く期待される課題である。 【四戸委員】構築連携による肥料確保や非プラスチック肥料の活用により、環境への負荷軽減が見込まれる研究である。 【佐藤文彦委員】農家の需要が期待され、市場性は高い。 | | | | | | | | | |
| | 実現可能性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.0 | 10 | 8.0 |
| | | - | A | A | A | A | A | A | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】従来の栽培技術に沿った課題で実現可能性は高い。 【四戸委員】農業者が取り組みやすい技術開発であり、実現可能性は高い。 【佐藤文彦委員】これまでの研究成果等を活用でき、実現可能性は高い。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----|----|----|----|----|----|-----|-----|------|
| 人・予算・設備等の推進体制 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.3 | 10 | 6.6 |
| | — | B | B | B | A | A | B | | | |
| | S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不足 D：不足 (×1/5) 【八巻委員】成果を確保するために、更なる予算等の措置が必要となることも想定される。 【四戸委員】限られた予算ではあるが、これまでも肥料の低減技術への研究を行っており、妥当な推進体制である。 【佐藤文彦委員】人員、予算ともに妥当である。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 100 | 85.4 |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| 総合評価 | 評価 | | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|------|------|
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | |
| | — | S | S | S | S | S | A | | |

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである **A：採択したほうが良い** **B：計画を見直した上で、採択しても良い**
C：採択の必要性は低い **D：採択すべきではない**

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

| | |
|----|--|
| 所見 | <p>【八巻委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産農産物の生産力や安全安心、ブランド力の向上等につながる必要性の高い課題であることから、早期の研究開発が望まれる。 <p>【四戸委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的な肥料高騰の中で、国内における肥料低減技術を体系化することは、大変重要な研究である。また、耕畜連携による有機物の土壌への還元や非プラスチック肥料の活用は、地球環境への負荷軽減が見込まれる時代にマッチした研究課題であり、農業者が取り組みやすい肥料低減技術を確立することは、農家経営の安定にも繋がることから、早期の研究成果を期待したい。 <p>【佐藤淳委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 化学肥料の価格高騰や原料調達に先行きが見通せない現状では、家畜ふん堆肥や緑肥などの有機物循環利用による化学肥料低減技術の確立は農業経営において喫緊の課題となっており、早急な技術開発と現地への普及が望まれる。また、既に「普及に移す技術」として公表されているリン酸、カリの減肥基準や堆肥による化学肥料の代替技術があるものの、指導者だけでなく農業者にもわかりやすく取り組みやすい内容として提示されることで、みどりの食料システム戦略や本県有機農業推進計画の目標達成に向けた進展が見込まれることから、研究に取り組む意義は高いと判断するので、成果を期待したい。 <p>【駒井委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> みどりの食料システム法が令和4年7月1日に施行され、「みどりの食料システム戦略」2050年目標に加え、2030年目標に「化学肥料使用量を20%低減すること」が設定されたところであり、化学肥料低減技術の確立は喫緊の課題である。 土壌診断等やデータを活用した省力・適正施肥といった施肥の効率化、家畜排せつ物等の利用拡大を推進することが求められているが、農業者が取り組みやすい技術開発であり、波及効果も高く、普及展開も大いに期待できる。 <p>【鈴木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源である家畜ふん堆肥を活用し、化学肥料の使用量や肥料コストの削減に資するものであり、畜産・耕種側の双方にとって効果的な取り組みとして期待します。 <p>【佐藤文彦委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> みどりの食料システム戦略の施策推進に寄与し、地域資源や緑肥の有機物の循環利用による化学肥料の低減、肥料コスト低減による農家経営の安定など、研究効果は期待できる。 |
|----|--|

研究課題評価表(事前評価)

| | | | | | |
|-----------|--|-------|------------|------|---|
| 課題コード | ⑩ | 評価実施日 | 令和4年11月21日 | 評価者名 | - |
| 試験研究課題名 | 乳用牛のベストパフォーマンス発揮に向けた飼養管理手法の確立 (重点的研究課題) | | | | |
| 試験研究機関名 | 畜産試験場 | | | | |
| 担当部署・担当者名 | 担当部(酪農肉牛部) 担当リーダー名(佐沢 公子) | | | | |
| 研究期間 | 令和5年度～令和9年度 | | | | |

| 項目別評価 | 評価項目 | 評 価 | | | | | | 係 数 平 均 | 比 重 | 採 点 | |
|--|-------------|--|----|----|----|----|----|------------|-----|-----|------|
| | | 研究目標のニーズ適合性・地域への貢献度 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.3 | 20 |
| - | | | A | A | A | S | S | A | | | |
| S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】飼養管理の効率化はニーズの高い課題である。 【四戸委員】県内の酪農家に対し、酪農作業の省力化が期待できる研究である。 【佐藤文彦委員】家畜の飼養管理や健康管理などの問題を解決するため、ニーズ、貢献度は高い。 | | | | | | | | | | | |
| | 緊急性・優先性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.3 | 20 | 17.2 |
| | | - | A | A | S | A | S | A | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】経営状況に直接影響する課題のため、緊急性は高い。 【四戸委員】乳用牛の供用期間の延長は酪農家にとって喫緊の課題であり、早急に研究を実施していく必要がある。 【佐藤文彦委員】酪農の問題解決と収益向上に繋がるため、優先性は高い。 | | | | | | | | | |
| | 独創性・先進性・優位性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.5 | 20 | 14.0 |
| | | - | B | A | B | A | A | B | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】本技術が確立されることで独創性や先進性の進展の可能性も考えられる。 【佐藤文彦委員】既存研究の延長であり、問題点の掌握、研究計画、手法等は妥当である。 | | | | | | | | | |
| | 市場性・成長性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.3 | 20 | 17.2 |
| | | - | A | A | A | S | S | A | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】ICTの積極的な活用等に伴い、コスト面、品質面の更なる成長の可能性も期待される。 【四戸委員】乳牛の生涯生産能力の向上により、酪農家の経営改善が見込まれる研究である。 【佐藤文彦委員】酪農家の経営改善や、乳量・乳質の向上が期待され、市場性は高い。 | | | | | | | | | |
| | 実現可能性 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 4.2 | 10 | 8.4 |
| | | - | A | A | A | A | S | A | | | |
| | | S : 極めて高い A : 高い B : 普通 C : やや低い D : 低い (×1/5) 【八巻委員】既に取り組みされている部分もあり現実的である。 【四戸委員】これまでの研究成果を活用しながら進められる研究で実現可 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|--|----|----|----|----|----|----|-----|-----|------|
| | 能性は高い。 【佐藤文彦委員】これまでの研究や既存資材を活用しており、実現可能性は高い。 | | | | | | | | | |
| 人・予算・設備等の推進体制 | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | 3.3 | 10 | 6.6 |
| | — | B | B | B | A | A | B | | | |
| | S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不足 D：不足 (×1/5) 【八巻委員】成果を効果的に発現させるための予算等の措置が必要となることも想定される。 【四戸委員】試験規模に見合った妥当な推進体制である。 【佐藤文彦委員】研究に関する人員、予算、資材等は妥当である。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 100 | 80.6 |

*採点の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値（四捨五入）を5で割った値に項目の比重をかけたものを採点とする。（100点満点とする。）

| | | | | | | | | | |
|------|-----|----|----|----|----|----|----|------|------|
| 総合評価 | 評 価 | | | | | | | 評価平均 | 総合評価 |
| | 渋谷 | 八巻 | 四戸 | 佐藤 | 駒井 | 鈴木 | 佐藤 | | |
| | — | A | S | A | S | S | A | | |
| | | | | | | | | 4.5 | S |

評価基準：

S：ぜひ採択すべきである A：採択したほうが良い B：計画を見直した上で、採択しても良い
C：採択の必要性は低い D：採択すべきではない

*総合評価の計算方法：係数（S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）の平均値を評価平均とし、その平均値（四捨五入）に該当する評価を総合評価とする。

| | | |
|--------|----------|---|
| 見 所 | 【八巻委員】 | ・生産性の向上のほか、社会情勢の変化への対応等の面からもコストや品質の向上につながる本研究の必要性は高いと考える。 |
| | 【四戸委員】 | ・従来、人が行っていた牛の観察について、ICT機器の活用による酪農作業の省力化及び疾病を予防する飼養管理技術を確立することは、県内酪農家の労力軽減と経営向上に寄与することから、早期の着手、成果の普及が期待される研究課題である。 |
| | 【佐藤淳委員】 | ・乳用牛の本来の能力発揮を目指した周産期飼養管理技術や分娩前後の疾病発生予防手法の開発は、生涯生産性向上に繋がる必要な研究であることから、取り組む意義は高いと判断するので、成果を期待したい。 |
| | 【駒井委員】 | ・ベストパフォーマンスを発揮するための課題の一つである乳用牛の供用期間の延長を目的に、ICT機器の活用や総合的な疾病予防法を確立させ、課題解決にあたる試験研究は有用である。また、人材不足を補うためにも、ICT機器の活用は効果的である。 |
| | 【鈴木委員】 | ・新型コロナウイルス感染症による影響や、不安定な国際情勢等を背景に、昨年度から配合飼料価格や燃油等の高騰が続いており、畜産経営に深刻な影響を及ぼしている。 ・酪農においては、国の増頭関連事業により、北海道を中心に都府県でも乳用牛が増加しており、飲用向けで超過する部分については脱脂粉乳等の特定乳製品に仕向けられているが、過去最高水準で推移しており、年度末の生乳廃棄も懸念されている。こうした中、乳用牛のベストパフォーマンス発揮を目指し、飼養管理や疾病対策の基礎的な部分に着眼した本試験研究は、乳量・乳質の向上等の生産性の向上に大いに寄与する試験研究であり、本県酪農の維持を図るためにも酪農団体と連携した着実な現場での浸透・拡大を期待します。 |
| | 【佐藤文彦委員】 | ・酪農にかかる飼養管理や家畜の健康管理などの省力化やコスト縮減、生乳生産の向上が期待でき、酪農家の収益向上につながるため、研究の必要性は高い。 |